令和五年度
学校評価（総括）

AICJ 中学・高等学校

1 教科指導

自　己　評　価				評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	評価の根拠	
【教科指導】 授業，学習指導の充実と生徒の学力向上支援体制を確立する。	（全校レベル） 主体的な学習意欲の育成を図り，難関大学入試を見据えた学力を定着させる。 （下位組織レベル） 1)教育課程の充実 2)教員の指導力強化 3)放課後の課外学習 4)土曜日の学習活動 5)長期休暇中の学習 6)家庭学習時間の向上 7)道徳教育の充実 8)学習発表会の充実	評価指標 1)①中学校は、イマージョン教育、道徳、英検の取得に重点をおく。高校では、5 教科かつ入試科目に重点をおきつつ、新教育課程を意識しながら取り組んでいく。 ②欠席者に対して、授業内容の確認等を行えるように Google クラスルームを活用していく。 2)①他の教員の授業を参観する。 ②予備校等が主催する入試研究会等の研修に参加する。また、大学入試改革・IB 教育関係・ICT 教育・新教育課程に関係する研修会等にも参加する。 3)①中学・高校とも英検の 2 次対策として面接練習等の授業を定期的に実施する。 ②高校対象に演習を中心とした、放課後の課外授業を実施する。 ③大学入試に向けて、課外授業を実施し、進路に合わせ生徒が選択して受講する。 ④高校対象に英語の対策に特化した課外授業を設定する。 4)土曜日に自習室を開放し、質問対応等できるように教科担当を考慮して配置する。時期は定期試験前に集中して行う。 5)①中学対象に演習、復習を中心とした夏期・冬期講習会の実施。 ②高校対象に、勉強合宿・集中勉強会を夏期・冬期・春期の 3 回実施 ③中学・高校とも、希望者に対して短期留学、語学研修等を案内実施する。 6)①寮での短期入寮制度の実施（定員に余裕がある時期に限る） ②家庭学習の質、量を改善するための『学習記録シート』を運用する。 ③定期試験前など Google クラスルームを活用した家庭学習の状況等の調査を実施。 ④家庭学習用アプリ等を活用し、毎日の学習状況を把握する。 7)中学 1 年から高校 2 年で縦割り班をつくり、ASC 活動(道徳活動)、全学年で縦割り班をつくり毎日の清掃を実施する。 8)スピーチ・ディベートデー（サイエンスデー）の実施 活動計画 1)新教育課程へのスムーズな移行、大学入試への柔軟な対応を行う。 2)①他の教員の授業を参観することにより，授業改善を図る。 ②外部からの情報を元に、大学入試、新教育課程への早期、柔軟な対応をする。 3)①英語力向上の判断材料として、英検取得を目標としていく。 ②、③学力の定着、大学入試を見据えた授業展開を実施。 4)土曜日の自習室を開放するとともに，教員を配置し，質問等にも対応する。 5)①、②復習、反復練習を中心に行い、基礎学力の定着を図る。 ③長期休暇だけでなく、学校生活に影響を与えない状況を確認しながら、多くの生徒が参加できるように案内を行う。 6)①短期入寮で学習習慣の定着を図るとともに、生活リズムの改善を図る。 ②③④個々の生徒の学習状況、生活状況を把握し改善に努める。また、電子上で管理することで、集計、データ分析による教員への負担の軽減も図る。 7)多学年との交流の中で様々なことを考え、道徳心の向上を図る。上級生が下級生に対して教えるという環境をつくり、双方に良い影響を与える。 8)英語によるプレゼンテーション能力、スピーチ力の向上を図る。また、理科実験について企画し、その内容・考察等について英語でポスターの作成、発表を行う。	1)A 2)B 3)A 4)A 5)A 6)B 7)B 8)A	1)①英検の取得状況は向上した。入試科目に重点を置くことで、多くの生徒が大学進学することができた。 ②Google の活用（クラスルーム・Meet でのオンライン対応など）も定着してきた。 2)①IB コースでは、他の教員による評価等も実施できた。 ②必要に応じて希望者が参加した。 4)実施はできたが、参加する生徒は少なかった。 5)①夏期のみの実施となったが、各学年で内容等工夫して実施できた。 ②予定通り実施でき、成果も得られた。 ③複数のプランについて案内・実施することができた。 6)①女子寮は定員に達しており不可、男子寮は多少の利用があった。 ②③④各学年で実施した。 7)ASC 活動については年 3 回実施することができた。清掃についてはコロナウイルスが落ち着いた頃から、縦割り班で実施することができた。どちらも生徒にとって良い環境、経験となった。 8)中 1～3 で実施した。中 3 のサイエンスデーでは、外部の方を招き、理科に関する講演会も実施した。	1)①英語力・英検取得の向上、新課程の大学入試においても、生徒の希望する進路実現に向けて取り組む。 ②教員によって活用の差が出ないように取り組む。 2)①期間を決める等して実施したい②高校担当教員中心に取り組んでいきたい。 3)①②③④生徒の状況等に合わせ、柔軟に対応していきたい。 4)引き続き実施し、学習習慣が定着していない生徒に個別で声を掛けるなどしていきたい。 5)①②は教員、生徒に負担のない範囲で実施していきたい。③希望者も増えているので、様々なプランを案内していく。 6)①可能な範囲内で実施を続ける②～④は Google クラスルーム、外部のアプリ等を有効活用し、各学年に合わせた形式で実施する。 7)良い効果が得られているので、引き続き実施する。 8)英語力の向上、社会で役に立つスキル、プレゼン能力の向上のため、引き続き実施する。

2 生活指導

自　己　評　価				評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方針
重要課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	評価の根拠	
【生活指導】 規範意識の向上（ルールを守る心、モラルやマナーを守る心の育成）に努める。	全校レベル Ⅰ）基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、集団行動で必要なルールやマナーを守ることのできる社会性を養う。 Ⅱ）学校、家庭と連携し、けじめのある生活を心がけ、責任のある行動がとれるようにする。 Ⅲ）他者との関係を調整する力やコミュニケーション能力を育成し、他人との違いを理解し、広い世界観をもとにした考え方ができる生徒を育成する。 Ⅳ）学校生活上、問題を抱え、支障をきたしている生徒・保護者に対する支援をする。	評価指標 1)①常時指導を行いながら全校集会や学年集会を通じて、服装検査を実施するとともに、基本的生活習慣の定着を行う。 ②制服の正しい着用の方法を確立し、常時教師が徹底して指導を行う。 ③授業の開始時間に遅れないよう、チャイムや時間に対する意識の定着を行う。 ④遅刻者を前年度よりも減少させるため、生活指導部を中心に呼びかける。 2)①保護者との連携を図る。 ②各年次で全員面接を実施する。 3)①ASC において、生命の尊重やいじめについての議題を話し合う ②通学路・電車内でのマナーの向上、及び交通事故ゼロを目指す。 ③盗難防止としての自己管理能力を高める。	1)B 2)A 3)A	服装に関しては特に乱れもなく染色に関しても見られなかった。 遅刻に関しては昨年度より減少させることが出来た。 電車内でのマナー等についてはもう少し意識を向上させることが必要である。 各長期休暇前には必ず文章を配布し、安全面等の指導を徹底した。	1)遅刻指導の徹底および基本的生活習慣の定着を行う。 2)引き続き密に面談等を行っていく。 3)ASC 等で扱うテーマを広げていく。通学路や電車内でのマナーについて徹底していく。
	・下位組織レベル 基本的な生活習慣の確立 中学生・高校生として、学習にふさわしい態度の指導 正しく制服を着用させる （セーター・ベスト） 余裕をもって登校し、生活にけじめをつけ、チャイム前に着席をする指導を行う。 遅刻指導の充実	活動計画 1)①服装検査（全校集会時） ②服装の再検査を行い、再検査になった生徒は定期的に検査を行う。 ③学年団の教師が休憩時間に見回りを行い、休憩時間の態度やチャイムを守る姿勢の指導を行う ④生徒指導部をはじめ、担任の協力のもと遅刻指導を行う。遅刻の多い生徒は担任と生活指導部で 3 者面談を行う。 2)①長期休業前文章連絡・必要に応じて家庭への電話連絡。 ②全員面接（4 月～5 月）を実施する。必要に応じて回数の調整を行う。 3)①ASC を定期的に行い、いじめについてや生命の尊重、人権について様々な学年と話し合う機会を設ける。 ②校門前、最寄りの駅から学校までの通学路（毎日）での指導を実施する。 ③個人用ロッカーを使用し、貴重品等の管理を徹底させる。			

3 進路指導

自　己　評　価				評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【進路指導】 生徒各自が進路設計をたて、自己目標を実現する	(全校レベル) (Ⅰ)進路相談の充実 (Ⅱ)本校の進路指導を保護者・生徒に広報し、理解を促す (Ⅲ)学力向上に向けた具体的取り組みを充実させる (個別レベル) 1)個人面談の充実 2)大学入試に関する情報収集 3)大学入試に関する情報発信と啓蒙 4)進路設計に向けた系統的プログラムの実施 5)集中学習会の実施	≪評価指標≫ 1)　高校全学年で個人面談を年間 3 回以上実施する。 2)　該当学年ごと「進路のしおり」または相当するビデオを発行する。 3)　予備校等が主催する入試傾向分析報告会等に対面・オンライン問わず参加。 4)　教育情報企業とも連携し、生徒への情報提供の機会を増やす。 5)　各学年の課題に応じた集中学習会を実施。 6)　校内での大学入試説明会・進路講演会の実施。 ≪活動計画≫ 1)①高 1・2 は定期試験後に、成績不良者を中心に問題点と改善策の指針を立て、模試返却後に、小問別の分析をし、優先的に復習すべき内容を伝達する。 ②高 3 は模試返却後に、自己目標に対して達成度が低い生徒を中心に、問題点と改善策の指針を立てる。 2)大学入試改革に関する報告会などには可能な限り参加し、情報をフィードバックするとともに対策を講じていく。 3)各予備校や塾の主催するオンラインセミナー、対面のセミナーに参加して情報を収集する。 4)教育情報企業による進路サポートツールを適時活用する。 1 年次：望ましい進路設計。職業観の形成。　2 年次：大学・学部・学科の研究と受験勉強のスタート　3 年次：志望校の確定。受験スケジュールの確認。教科　別対策の徹底 5)高 1、2 は総合的学力の上昇を重視しながら個々の適性を早期に把握し、指導していく。高 3 は個々が目標とする志望校特性に応じた学力形成を重視。 1 年次：夏期校内集中学習会・春期校内集中学習会　2 年次：夏期校内集中学習会・春期校内集中学習会　3 年次：夏期校内集中学習会 6)さまざまな予備校等に依頼し校内で受験についての説明会を学期 1 回を目標に実施する。	1)A 2)B 3)B 4)A 5)A 6)A	1)主に昼休憩を用い担任が継続的に面談を実施している。 2)保護者対象の進路講演を高 1・2 で実施。 3)共通テストの報告会のみオンラインで参加。 4)ベネッセ・河合塾・駿台を中心に他の企業とも頻繁に連携し、担任を経由して情報を提供。リクルート・フロムページのツールを用いて進路について情報提供。 5)夏に約 2 週間の長期に渡る学習会を実施。 6)大規模なものとしては 7 月に約 20 大学を招いて実施する大学説明会、また、ベネッセや鷗州塾、広島大学スタートアップ推進部門による講演を実施。	1)継続 2)該当学年ごととなっているが高 1・2 でよいと思われる。 3)資料を読めば十分な内容のものが多く進路としてはこのままでよいと思われる。 4)ツールは揃ってきたがその活用はもっと充実できる。 5)現状維持。 6)医療系の講演会を増やしてもよい。

4 人権教育

自　己　評　価				評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【人権教育】 特別活動の充実を図り、様々な学年との交流で人権についての多くの意見を取り入れ、学校生活のあらゆる場面で、相手の立場になって考え、行動できる生徒を育成するとともに、全校生徒がよりよい学校生活を送ることを目指す。	・全校レベル Ⅰ）　自分の大切さとともに他人の大切さを認め、様々な学年の意見を取り入れることによって人権に対する感性を磨き、常に相手の立場に立って考え行動することのできる人づくりを目指す。 Ⅱ）　日常生活の様々な機会を通して、人権が尊重された環境づくりに努める。 Ⅲ）　他学年との話し合いの中で自分の要求を一方的に主張するのではなく、他の人との人間関係を調整する能力や自分とは異なった意見を受け入れる基盤づくりを目指す。 Ⅳ）　人権問題に積極的に取り組む実践的な態度を身につける。	評価指標 1)　特別活動を定期的に行い、生徒が積極的に参加し、充実させることができたか。 2)　特別活動後に生徒に感想を書かせ、回収しまとめ、生徒にフィードバックする。 3)　日常生活での人権についての話や特別活動での話し合いの総括。	1)A 2)B 3)A	全学年の清掃場所の縦割り班にて人権教育等の話合い等を行うことが出来た。また、生徒対象学校アンケートを学期に 1 度とりさまざまな意見を取り上げることが出来た。	生徒の日常生活の実態に沿った問題を定期的に取り上げ、今年度同様に来年度も縦割り班での話合い活動の活性化を図る。全校集会から話をする機会を設けるようにする。
	・下位組織レベル 1)　学校全体での特別活動の活性化 2)　特別活動の中で出てきた、印象に残る生徒の感想の配布 3)　全校集会などの学校行事のなかでの啓発	活動計画 1)　特別活動についてもう一度確認し、幅広く人権について討論できる議題で行う。 2)　特別活動終了後にクラスで出てきた感想の中で印象に残るものをまとめ、生徒に配布する。 3)　全校集会において人権についての講演や映像を見ることで、特別活動の事後指導につなげられるようにする。			

5 特別活動

自　己　評　価				評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【特別活動】 学校行事の活性化を図るとともに、行事を通して、自立心を養い、社会に貢献できる、幅広く調和のとれた人材を育成する。	≪全校レベル≫ 集団活動を通して、集団や社会の一員としての在り方、考え方を育成するとともに、自己管理能力、自主的、実践的な態度を身につけさせる。 ≪下位組織レベル≫ １）学校行事を充実させる。 ２）生徒会活動や各種専門委員会活動、ホームルーム、クラブ活動が連携するとともに、それぞれの活動を活性化する。 ３）クラブ活動を通して自己管理能力を高める。 ４）年間を通して遅滞無く準備が進むように、早めの計画立案、準備を行う。	≪評価指標≫ １） クラブ紹介（4 月第 1 週に実施）の充実。クラブ紹介パンフレットの作成。 平和の集い（7 月実施）の事前、事後の活動の充実。招聘団体もしくは個人と協同して継続的に平和への取り組みを行う。昨年活動に参加した日本赤十字社をはじめとして外部の団体が企画するプロジェクトに積極的に参加していくものとする。 学園祭において生徒自ら企画し、外部の団体、組織と協力した企画を複数実施する。また学園祭実行委員を募集し、実行委員企画のイベントの充実を図るとともに従来の企画の見直しを行い、各企画の改廃、新規の企画の実施を行う。 ２）クラブ紹介の充実を図る。 各委員会活動の充実を図る。 ３）クラブ紹介などを通して多くの生徒がクラブに所属するよう働きかける。 ４）クラブ紹介は４月第１週、学園祭は１学期中、クラスマッチは１月中に計画を完了する。 ≪活動計画≫ クラブ紹介（4 月）、平和の集い（7 月）、学園祭（10 月）を実施する。	1)　A 2)　B 3)　A	1) クラブ紹介；前年度末からの準備開始により、新学期早々にクラブ紹介用パンフレットの作成が滞りなく行われクラブ紹介自体も時間内にスムーズに実施することができた。 2) 平和の集い；急遽日程が前倒しになったため事前、事後の活動を充実させることが出来なかった。次年度以降は平和の集いの実施の意義から見直していく必要がある。 3)学園祭；コロナ禍以降初めて制限のない実施ができた。クラス、クラブ単位の活動だけでなく外部の団体と連携したり、外部の団体を招いてイベントを企画したりするなど充実したものとなった。	生徒が学内で特別活動に従事する時間の確保が難しくなっている現状では従来通りの活動を求めることは困難であると思われる。次年度以降は外部の団体、組織の企画する様々な取り組みに生徒が積極的に参加するように情報収集に努め、その情報の発信に注力していく必要がある。

6 環境教育

自　己　評　価				評価サイクルの検証	次年度への課題と今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【環境教育】 環境問題の理解とその解決への実践、および身の回りの環境美化の推進	（全校レベル） ① 環境問題に関心を持つと共に自然や資源を大切にする心を育成する。 ② 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。 （下位組織レベル） ① リデュース・リユース・リサイクルを推進する。 ② 節電・節水に取り組む。 ③ ごみを最小限に抑制する。 ④ 清掃活動に積極的に取り組み環境の美化に努める。	〔評価指標〕 ① 印刷用紙の削減を意識する。 ② 節電・節水を意識する。 ③ ごみの分別を意識する。 ④ 清掃に真剣に取り組むように意識する。 すべての項目それぞれにおいて８割以上の人が意識できるようにする。 〔活動計画〕 ① 保護者への案内文など、HP 上に掲載できるものは掲載し、印刷を控える。中１よりクロムブックを利用し授業やテストのプリント印刷を最小限にしていく。 ② 毎月の電気・水道使用量を過年度と比較することで環境問題への意識を高める。クラス代表に責任もって各教室のエアコン・電気の ON/OFF を徹底するよう指導する。 ③ 各クラスでごみを最小限に抑えることを意識させ、ゴミの量を減らす。紙・ダンボールなどは、できるだけ資源ゴミとしてリサイクルを意識する。授業で利用したプリントを捨てないように指導する。 ④ 校内の清掃を全員が時間いっぱい取り組む。縦割り清掃を再開し、先輩が後輩を指導する体制を作る。必要に応じて全校清掃を行い、校内外の美化に努める。リーダー・副リーダーを配置し意識改革を行う。	①B ②A ③B ④A	①余分な紙が出ないように印刷を意識して行った。オンライン学習システムの利用により、印刷しなくてすむものはオンライン上で確認できるようにしたことでかなりの紙の削減ができた。削減量が昨年度とあまり変化がなかった。 ②移動教室での授業時にエアコン・電気の消し忘れがないように生徒・教員で意識した。節水については、水道が感知式のため達成できた。 ③ごみの分別に関しては、各クラス内は可燃のみゴミ箱を設置し、外部から持ち込んだ不燃ごみは持ち帰ることを徹底した。 ④縦割り清掃を実施したため先輩が後輩を指導することができた。各清掃場所に教員を配置したが、何もいわなくてもきちんと清掃する生徒が増えたが、清掃時間に遅れてくる生徒も見られた。	①無駄な紙の印刷をもっと少なくしていく。シュレッダー量を減らすことを意識していく。 ②教員が廊下を歩く際にエアコン・電気の切り忘れを常に意識していく。 ③不燃物の持ち帰りを引き続き徹底していく。紙類のごみも目立ったのでプリント類をきちんと整理させていく。 ④縦割り清掃において、先輩に責任感をもっと持ってもらい、後輩の指導をしっかりと行っていく。教員がいなくても、きちんと清掃する体制を作っていく。